
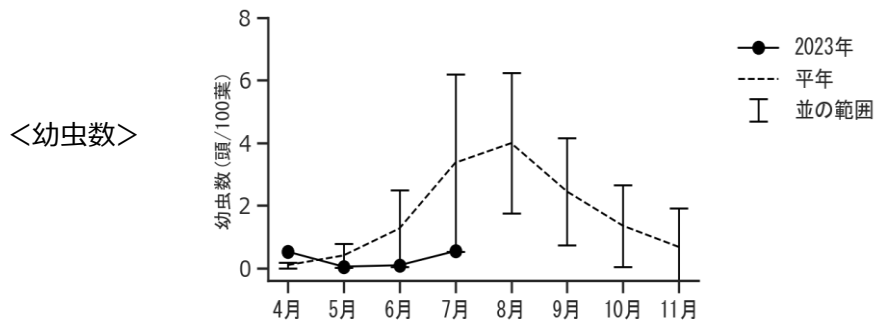
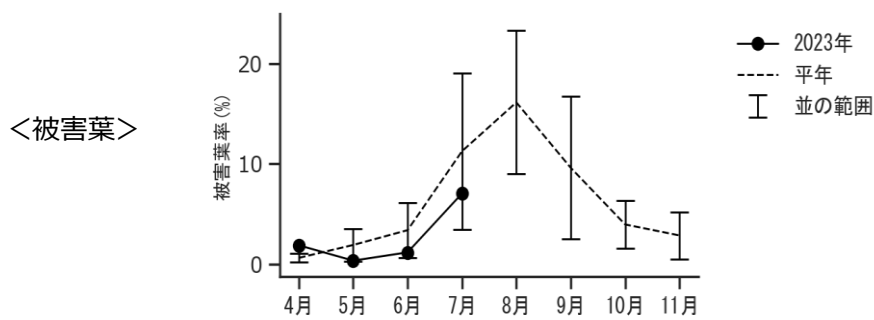


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率100% (平年 : 91.3%)

防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・発生初期の防除が有効であるので、被害葉が見られたら、薬剤散布する。



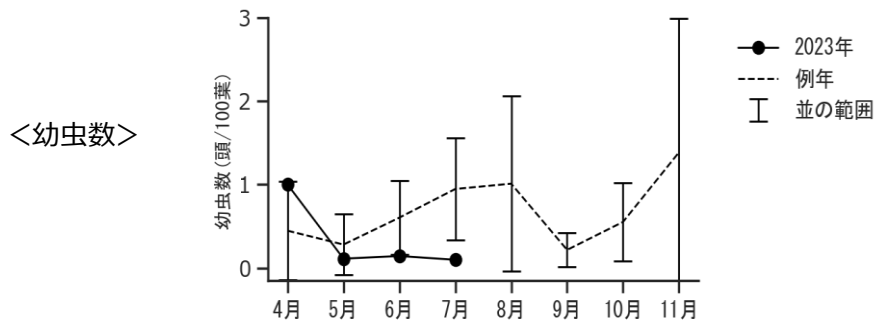
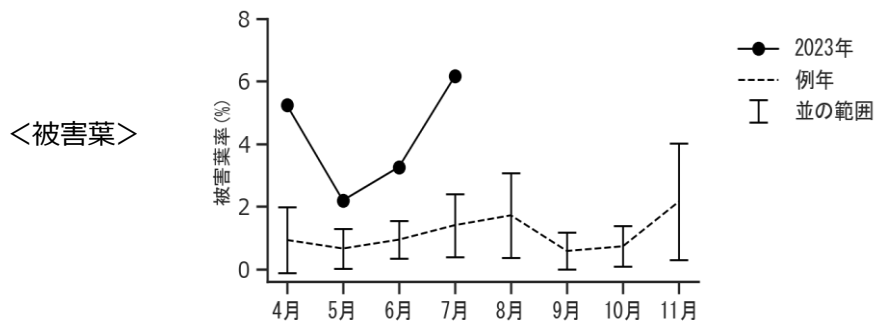
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	多	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	



サツマイモトリバ

調査結果

今期と例年の発生推移




・発生ほ場率100% (例年：60.0%)

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、早期防除に務める。

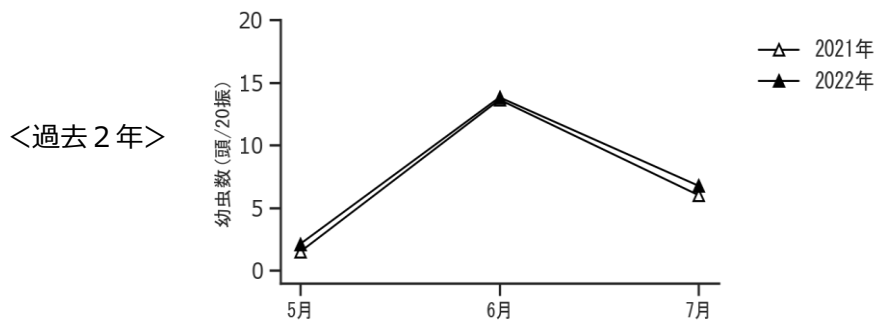
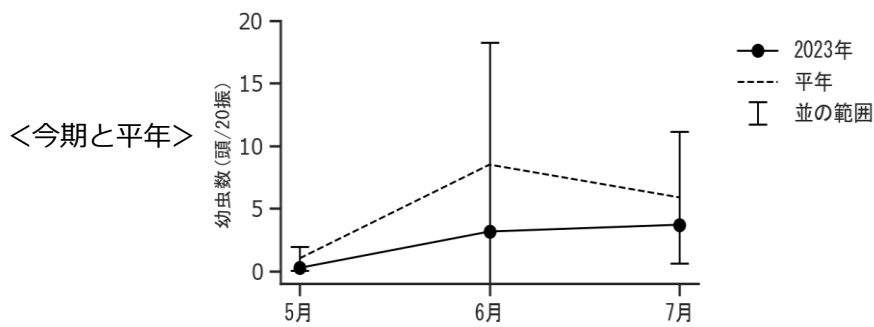


被害葉

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 72.5%)

防除のポイント

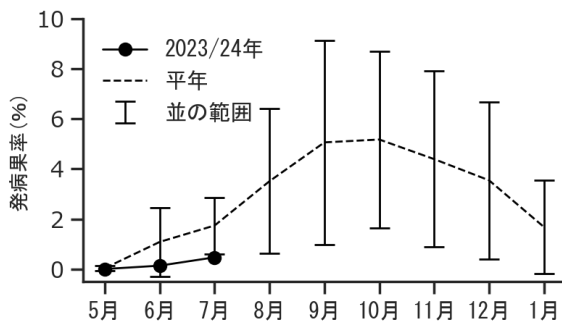
- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	7月の発生量（平年比）	やや少	
予報	7月からの増減傾向	↗	
	8月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

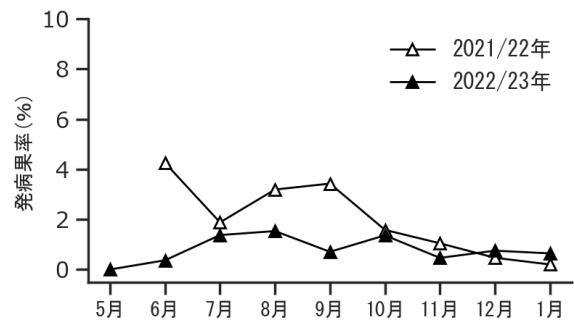


調査結果

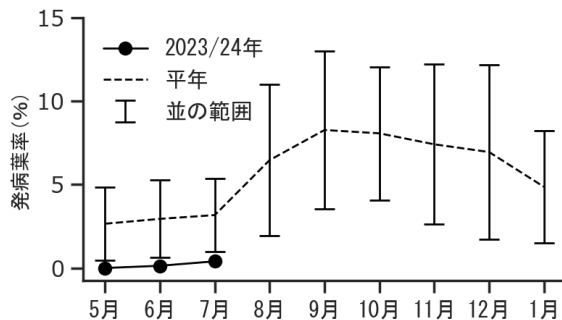
発病果率の推移（今期と平年）



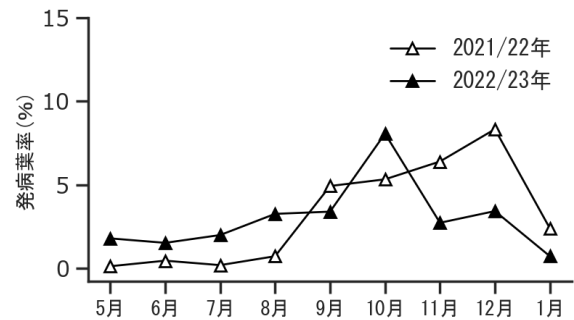
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度0.0（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：63.0%）

防除のポイント

・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。



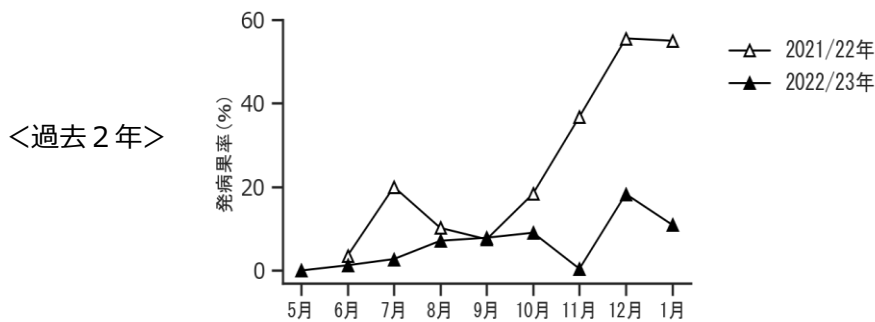
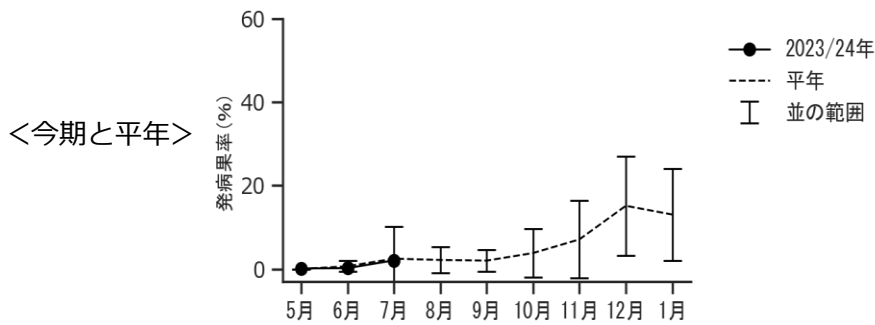
被害葉→

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並	
予報	7 月からの増減傾向	→	
	8 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	



調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度0.4（平年3.2）
- ・ 発生ほ場率60.0%（平年：15.2%）

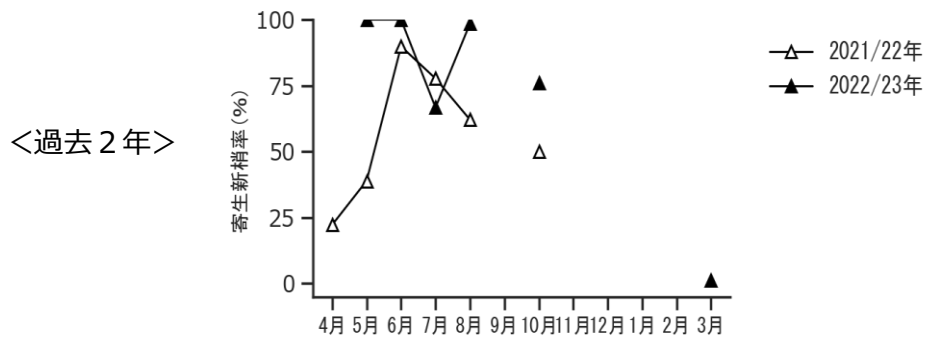
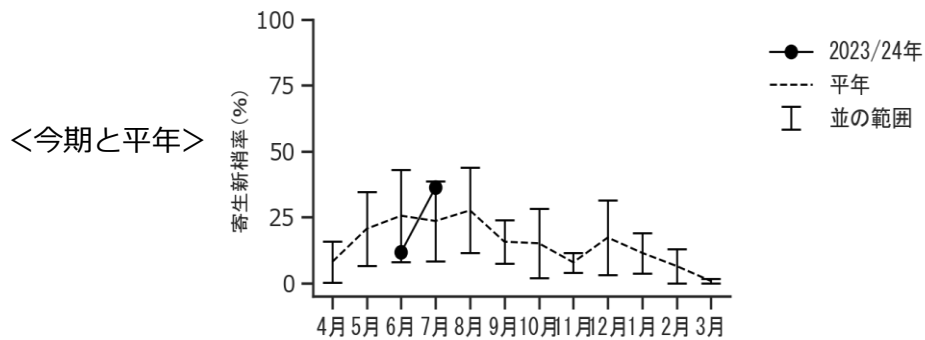
防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミカンハモグリガ		
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


寄生新梢率の推移



・発生ほ場率100%（平年：78.9%）

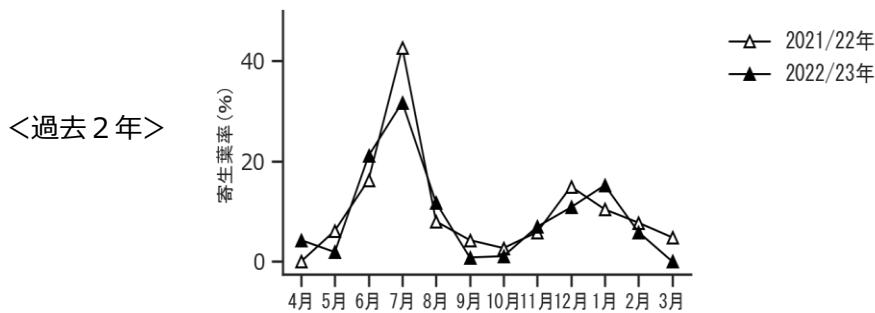
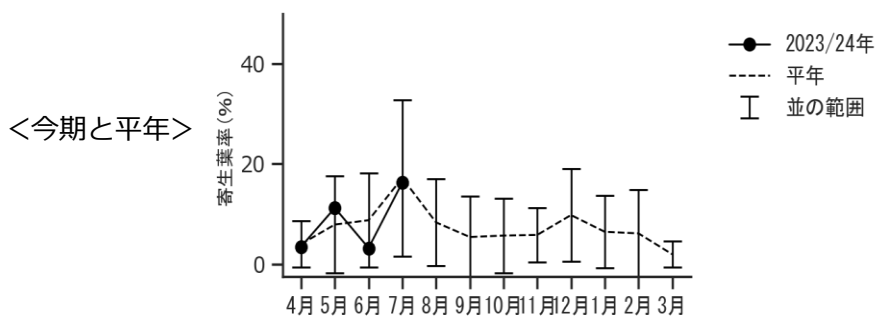
防除のポイント

- ・食害痕にかいよう病が感染して伝染源になるので、被害葉の除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：47.8%）、一部ほ場で発生が多く見られた。

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

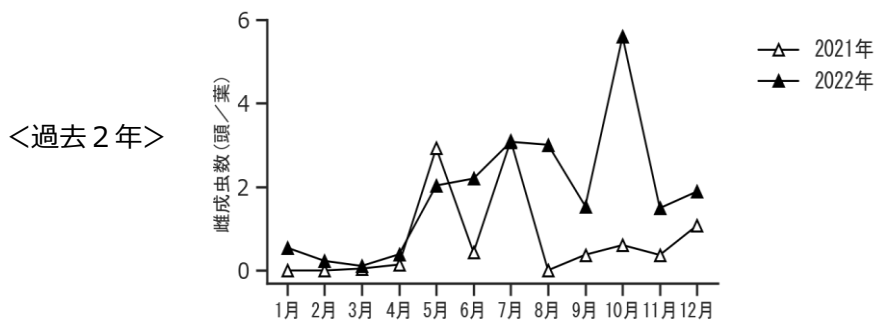
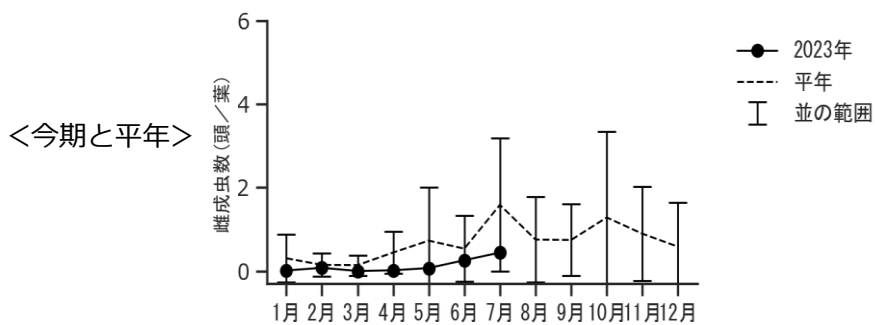


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

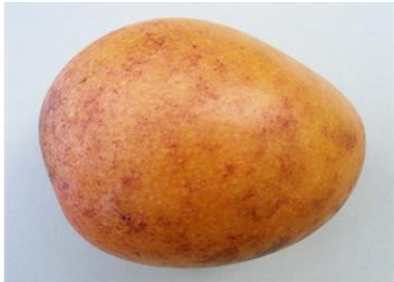
雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率50.0% (平年：60.9%)

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による果実のまだら症状




ハダニの寄生による葉のかすれ症状



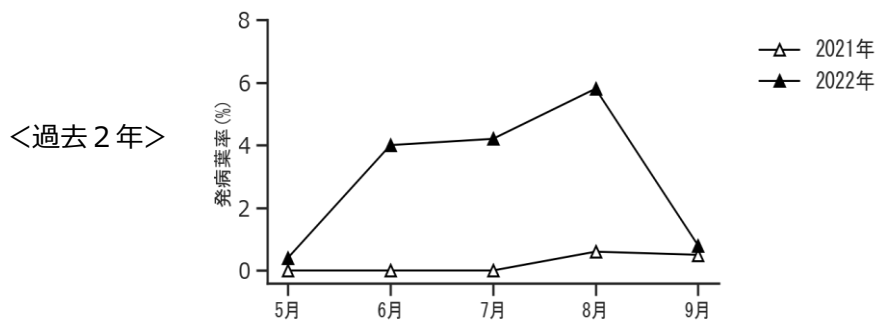
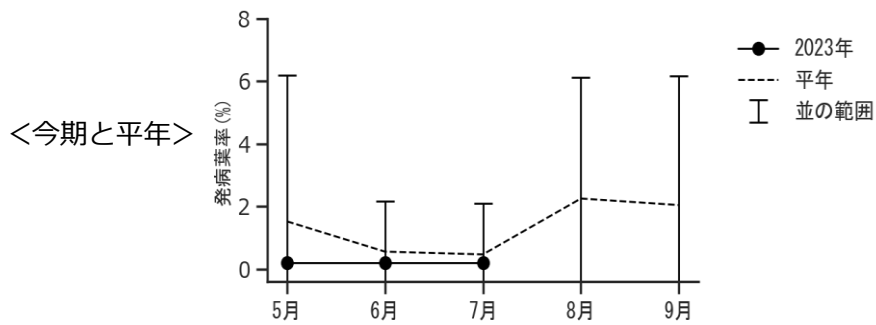
マンゴーツメハダニ



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 2.2%)

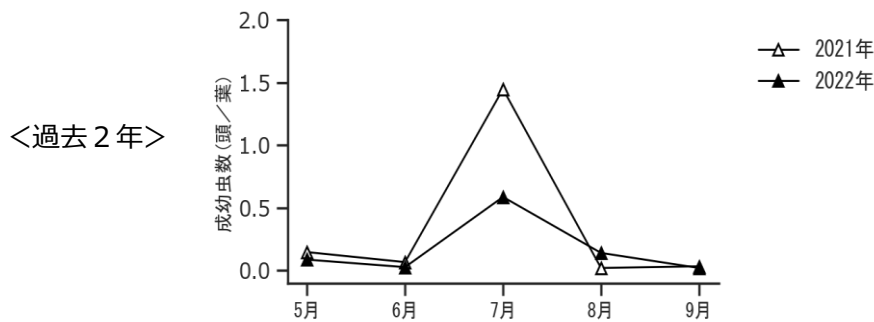
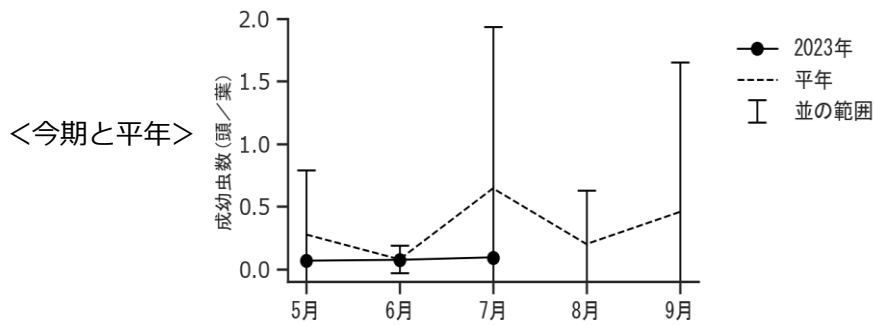
防除のポイント

- ・ 下位葉は適宜除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・ 罹病葉は早めに除去し、定期的な予防散布を行う。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類			
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報	7 月からの増減傾向	↓		
	8 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 28.9%)

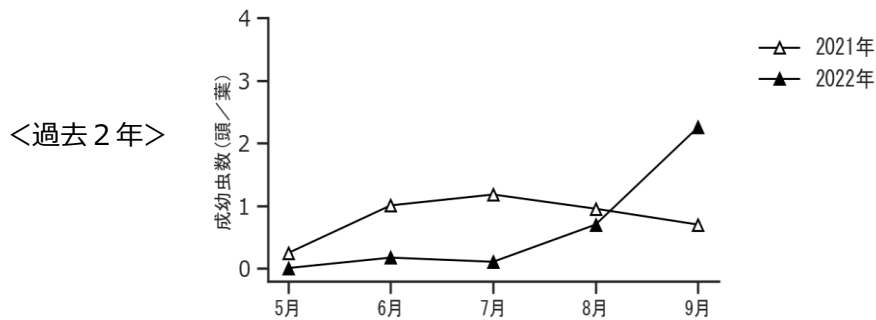
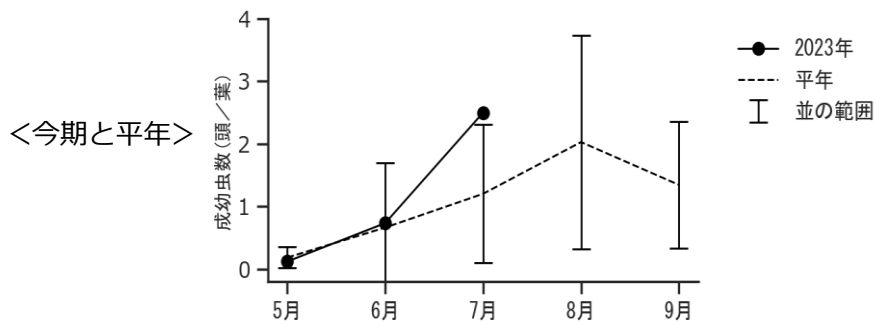
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内の雑草を除去する。
- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、茎頂付近や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	③ フタテンミドリヒメヨコバイ			 成虫
調査結果	7月の発生量（平年比）	やや多		
予報	7月からの増減傾向	↗		
	8月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

成幼虫数の推移

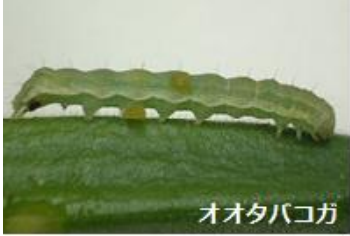


・発生ほ場率100%（平年：68.9%）

防除のポイント

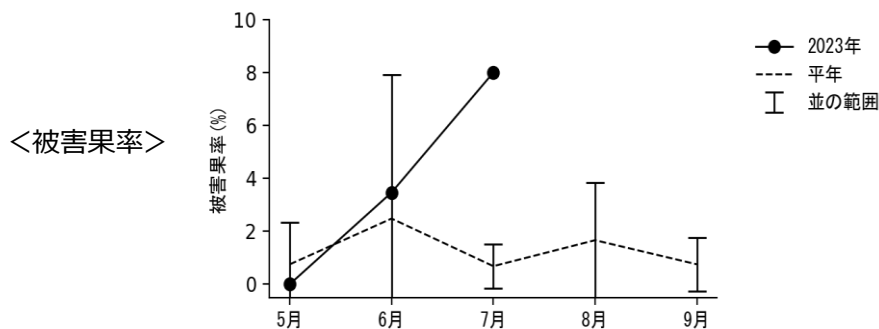
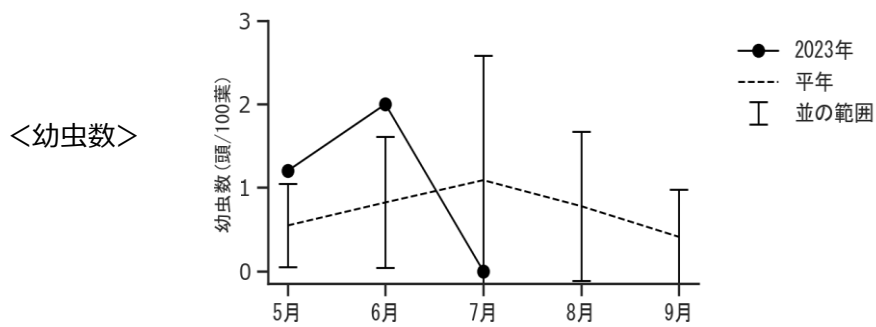
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	7 月からの増減傾向	↘	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率0% (平年 : 31.1%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

